

## 6. セミナーを終えての感想と今後の課題

### 井上 勝委員

#### 1. 千葉市立花見川第二小学校でのセミナー

##### 1.1 事前準備

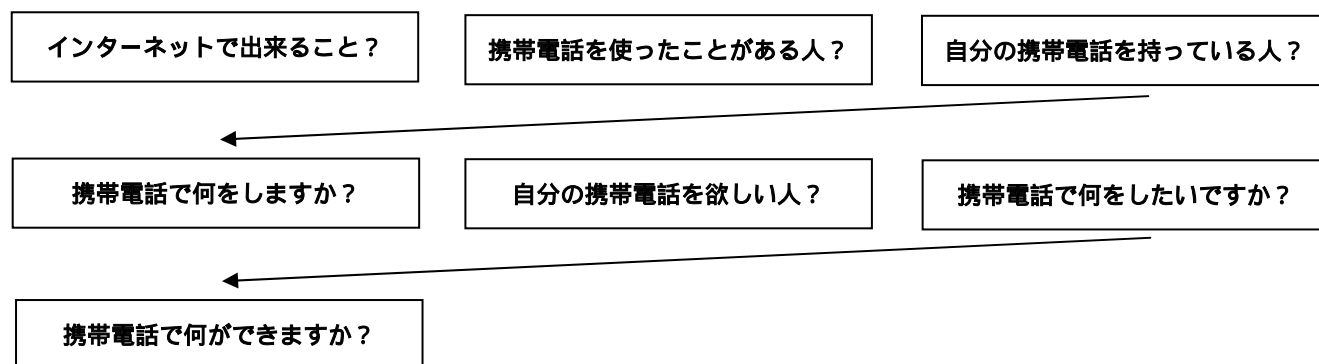
千葉市立花見川第二小学校は昭和43年、公団花見川団地の入居開始の年に創立された学校で、現在は各学年1学級、全校児童165人の学校である。私の勤務する八千代松陰高等学校から車で20分ほどの距離にあり、花見川第二小学校区から本校に通っている生徒も多くいるので、私にとっては地元の学校という第一印象であった。

近いという地理的なメリットを活かし、セミナーをより充実したものにするために事前打合せを佐々木秀一校長先生に打診したところ快諾してくださった。セミナー開催の約ひと月前に実現した。学校の概要や児童のインターネットやケータイの利用状況、セミナーへの要望点などをうかがい、会場の下見、機器の確認などをさせていただいた。雑談の中で、佐々木先生は八千代市内の中学校に勤務されたことがあり、先生と私の共通の教え子が何人もいることがわかった。このことによって、より強い親近感を抱きつつセミナーの準備に取り組むことができた。

##### 1.2 児童向けセミナー

土曜参観授業の位置づけで5・6年生の児童66名を対象として行った。児童生徒用のテキストとプレゼンテーションソフトを活用して次のような流れで進行した。

###### (1) 発問



これらの発問により、受講している児童の携帯電話の所持率、利用実態を把握することができるとともに児童に携帯電話は「電話の機能もついたコンピュータ=インターネットへの入り口」であることを示す。

###### (2) テキスト2～5ページ

ケータイ・パソコンは便利であるが、気をつけて使わないと、危険な目にあったり、トラブルになったりすることもあることを示す。

### (3) 発問

メールの良いところ？

メールの困ったところ？

### (4) テキスト12～13ページ

テキストと以下の内容に解説。

- ・文字だけでは本当の気持ちは伝わりにくい 誤解されない文章が大切
- ・相手の状態を考えて送ろう メールは相手の都合の良いときに読んでもらうもの
- ・友だちの間でルールを作ろう 生活習慣を乱さないために
- ・チェーンメールの例の紹介 本当の情報かどうか見極めよう
- ・なりすましメールの例の紹介 変だと思ったら親や先生に相談する

### (5) DVD視聴(「ちょっと待って、ケータイ」の事例2「ケータイに忍び寄る罠」)

DVDとテキスト8～10ページの内容を解説し、インターネット上には有害な情報もたくさんあることを示す。

### (6) まとめ(テキスト19ページ)

ネット社会をうまく歩いていくためにはネット上のコミュニケーションと face to face のコミュニケーションのバランスが大切であることを示す。

## 1.3 保護者向けセミナー

児童向けセミナー終了後に実施。保護者のほか近隣の小学校中学校の先生方も参加された。申込時の要望にそって「小学生はいつ頃から携帯を持たせるのが適当か」に主題を置いて以下のような内容で進めた。

- (1) 子どものケータイ所持率、利用実態等(テキスト22～23ページ)
- (2) インターネットのしくみ
- (3) インターネットの歴史
- (4) ネット社会の特性(テキスト26～27ページ)
- (5) 子どものケータイ・ネット利用についての問題点
- (6) 子どもにケータイを持たせたときに生じやすい事例
- (7) フィルタリング設定の必要性
- (8) DVD視聴(「ケータイに潜む危険」の事例3「プロフの危険な誘惑」)
- (9) はじめて子どもにケータイを持たるときに必要な保護者の心構え
- (10) まとめ(テキスト30～31ページ)

## 2. セミナーを終えての感想

冒頭にも書いたが、地元の学校でのセミナーであったので、大変話しやすかった。話とスライド

だけでなく保護者用テキストの中にも紹介されている文部科学省エル・ネットで閲覧できる映像と同じ内容のDVD映像を視聴していただいたが、効果的であった。

授業中の子どもたちの様子を振り返ってみて、子どもたちのネット・ケータイ利用の安全性を高めるためには単にこれはしてはだめ、こうすればよいという Know How だけの教育では限界があり、なぜそれをしてはだめなのか、なぜそうすればよいのかを教える Know Why の教育が重要だと感じた。

### 3. 今後の課題

セミナーは、限られた時間であり、テキストの内容すべてを扱うことはできない。私の勤務校には中学校が併設されており、技術・家庭科の「情報とコンピュータ」の授業で情報モラルを指導する際「ネット社会の歩き方」を教材として利用することが多い。非常に良い教材だからである。テキストの内容を「ネット社会の歩き方」に還元することができればセミナーで話しきれなかった内容についてより深く理解していただくための教材になるとともにセミナーに参加したくても参加できない人への学ぶ機会を提供することになる。

高度情報化社会を生きていく子どもたちにとって情報を適切に使いこなす力をつけることはまさに生きる力である。小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の新学習指導要領には情報モラル教育の充実がうたわれている。そのためにはより多くの教員が情報モラルを指導できる体制作りが不可欠である。文部科学省では平成21年度中に全国7地域で指導主事及び教員を対象とした情報モラル教育の指導者養成研修を実施した。このような研修が充実、拡大していくとともに、情報化の進展に見合った教材の継続的開発が必要である。

ネット・ケータイ利用の安全に対する意識は向上しつつあるが、情報モラルに関心を示さない人たちもいることは事実であり、啓発活動が必要である。

トラブル事例から学べることを転ばぬ先の杖として活かすためにケータイキャリア、コミュニティサイト等の運営者、警察、学校、研究者が連携してトラブル事例を共有するシステムが必要である。

子どもの発達段階に加え、ケータイを持たせている保護者向けのセミナー、まだ持たせていない保護者向けのセミナーというように対象を限定したセミナーがより効果的であると考えられる。

## 1. 上越市立国府小学校

### 1.1 児童向けセミナー

#### (1) 共通体験を作り出す

セミナーの最初に、子どもに手を挙げさせて携帯電話を持っている割合を調べてみると、数人程度であった。そのため、セミナーで取り上げる事例が、どのような状況なのか子どもに共通理解させることが大切であると考えた。そこで、事例を再現しているビデオ教材を見せて疑似体験させ、子どもたちに考えさせていった。子どもたちがケータイをあまり持っていない状況で、ケータイの使い方について考えさせるのは、ケータイへの興味を余計に高めることになるのではないかという意見もある。しかし、賢く上手な使い方を身につけさせる内容であれば、ケータイへの興味を高めることに直接つながらないように思う。この点は憶測で話を進めても結論がでないので、携帯電話を扱ったセミナーや情報モラルの授業後に子どもへのアンケート調査を行い、携帯電話を持ちたいという気持ちが高まったかどうかを調べてみる必要がある。このことは、ぜひ調査をおこない情報モラル教育を実施していくうえでの不安を解消しておきたい。

#### (2) 携帯電話の使い方のルールを作る

国府小学校では、子どもたちに携帯電話の使い方について家庭でのルールを作るワークショップを取り入れた。子どもたちは、大変積極的にルールづくりに取り組み、指導者が予想していたよりも熱心にルールを考えていた。ルールの内容としては、ケータイの使用時間についてのものが多かった。ルールを考えることは、ケータイの使い方についていろいろな場面を考えることになるので、総合的にケータイの使い方を考える上で有効であると感じた。

保護者もいっしょに参加している場合は、保護者にもルールを作ってもらい、子どもと保護者のルールの違いを比べてみる展開も子どもと保護者の考え方の違いがお互いにわかってよいと思う。

#### (3) 子どもの発言を取り上げる

また、事例を扱う中で、できるだけ子どもが発表する機会を多くするように意識してセミナーを進めた。時には子どもたちの中に入っていき指名して発言を求めることも行った。

子どもたちの発言を取り上げることでセミナーの内容について子どもたちがどのように感じているのか知ることができ、セミナーの展開を微修正していった。

### 1.2 保護者向けセミナー

保護者を対象に、児童向けセミナーでは触れることができなかった実際のプロフや掲示板を見せることにより現実を理解してもらうように心がけた(図1)。

社会の現状から考えると子どもたちは携帯電話をいつか使うことになるので、単に禁止すれば問題が解決するというこ



図1 プロフの例

とではなく、危険を避けながら上手に使うことができる力を付けていくことが大切であるという方向で話を進めた。大人になれば、安全に上手に使うことができるようになるとは決して言えない。

大切なことは、家庭で子どもたちが携帯電話をどのように使っているのかについて保護者が関心をもつことである。携帯電話やインターネットの使い方について家庭でのルール・約束を考えることは、目的ではなく手段であるということ伝えていった(図2)。

また、情報モラル教育の構造は交通安全教育の構造と良く似ており守るための「法律」や「仕組み」が必要であるが、それだけでは自分を守ることができないので、自分で自分をどのように守るのかということ学んでいくことが必要になってくる(図3)。

## 家庭でのルールづくり

- ・家庭でのルールづくりは、相談する中で、保護者と子どもがケータイの使い方について話すことに意味がある。



図2 家庭でのルールづくり

## 交通安全と情報モラル



図3 交通安全と情報モラル

## 2. 上越市立直江津中学校

### 2.1 生徒向けセミナー

全生徒を体育館に集めて行うセミナーであった。そのため、講義形式で進めていったが、この場合もできるだけ生徒の意見を聞く機会を多くとるように心がけた。

最初に、携帯電話やインターネットの便利な点を挙げ、しかし、気をつけていかなければならないこともあるという展開でセミナーに入っていた。このセミナーもテキストとともに「ネットいじめ」を扱った事例ビデオ教材を活用した。ビデオ教材を視聴している途中で、生徒たちの中に一瞬ざわめき起きた。理由はわからなかったが、生徒たちの中で事例ビデオ教材と同じことが実際におきていたのではないかと感じた。全生徒がいっしょにセミナーを受けたため、子どもたちに細かな対応をすることは難しかった。しかし、生徒たちはセミナーに集中していたのでたいへんスムーズにセミナーを進めることができた。

やや安易ではあるが、セミナー内容の理解度を確認するために事例ワークシートを用意しておき、それぞれの事例についてどう対応するのか生徒に挙手や口頭で答えさせてまとめる方法も考えられる。

また、携帯電話に関しての多くの問題事例があるが、そのすべてを扱うことは到底できない。また、毎年新しい内容が加わってくる状況である。セミナーで扱った事例については、それに関連した事例にも生徒が応用力を働かせることができるように進めていった。

## 3. セミナーテキストと補完教材

今回は、共通体験をつくる手段として事例ビデオ教材を使用した。が、「ネット社会の歩き方」(Web サイト)等の教材を用いることもできる。「ネット社会の歩き方」は、従来から作られていたものでセミナーテキストとは特に関連づけられたものではない(図4、図5)。今後、「親子のためのネット社会の歩き方セミナーテキスト」の内容が「ネット社会の歩き方 Web サイト」に反映されてお互いが補完関係になっていくとセミナーや授業で活用する上で非常に効果的で

はないかと思われる。



図4 ネット社会の歩き方

高校生の知恵者に聞いてみたい時に

### えっ、ボクが？ ネットいじめの張本人!?

ほんの軽い気持ちでやったことでも、相手を知りすぎてしまったりすると、自分でも想像できないくらい、広まってしまうかもしれない。勝手に自分に関する情報が、手元を離れていくこともある。

友達の名前を呼ぶ、悪口を言う、悪意のあるコメントを付ける、悪意のある画像をアップロードする、悪意のある動画をアップロードする、悪意のあるコメントを付ける、悪意のある画像をアップロードする、悪意のある動画をアップロードする。

- 悪口を呼んで悪意を込めるようなことは書き込まない。
- 自分の名前を晒して相手の悪口を書き込まない。

ネットいじめは、相手の悪口を書き込まれる、悪意のある画像や動画をアップロードされる、悪意のあるコメントを付ける、悪意のある画像をアップロードする、悪意のある動画をアップロードする、悪意のあるコメントを付ける、悪意のある画像をアップロードする、悪意のある動画をアップロードする。

ネットいじめは、相手の悪口を書き込まれる、悪意のある画像や動画をアップロードされる、悪意のあるコメントを付ける、悪意のある画像をアップロードする、悪意のある動画をアップロードする、悪意のあるコメントを付ける、悪意のある画像をアップロードする、悪意のある動画をアップロードする。

図5 セミナーテキスト

## 1. テキストの修正

CEC の委員として2年目になった。昨年度はテキストの開発に関わらせていただいたが、今年度は、それを改善し修正することとなった。児童生徒向けは変えずに、保護者向けのテキストを大きく変更することとなり、自分の担当のページを検討することとなった。他の委員さんやCECの方たち、編集の皆さんの高い見識のおかげで、テキストの修正ができた。

テキストを使ったプレゼンをすることになっているので、保護者向けに、子供の実態や情報モラルの現状を踏まえた内容になるように心がけた。

## 2. 坂梨小学校の子どもたちとのセミナー

### (1) 全国どこでも関心は高い

この時期、新型インフルエンザの流行が話題だったが、熊本の学校でも東京と同じように流行していて、全国津々浦々感染が広がっていることを実感した。実は、携帯電話やインターネットへの関心も似たところがある。熊本の子どもたちも東京の子どもたちと変わらない関心を示した。

昨年同様、テキストに入る前に、光と影の話をした。これは、往々にしてケータイやネットの影の部分が強調され、排除優先の気運が強い昨今に危惧を感じているからである。子どもたちが長じた時には、ケータイやネット社会は、必要不可欠なものになっているのは間違いないからである。子どもたちが大人になった時の社会は、ケータイやネット社会がないと生きていけない時代なのである。子どもたちには、もっと明るく、正しく、便利に使って欲しい、というスタンスでセミナーをした。

### (2) 3つのポイント

昨年度同様、テキストを3つに分類して活用した。ただ順番にページを追ってだけでなく、わかりやすいポイントを軸にしようと考えたのである。そこで、テキストの内容をKJ法で分類して、最終的に3つのグループに分けた。

顔は見えない(匿名性の危険)

使い方を知ろう(知らないことで巻き込まれる危険)

だめなものはだめ(実社会でだめなものはネット社会でもだめ)

### (3) 立派だった子どもたち

子どもたちのセミナーは教室で行った。授業参観も兼ねていたので、十人くらいの保護者が参観していた。6年生だったが、皆とても熱心に参加し聞いてくれた。私の話が中心だったが、発表する場面や書く場面もあった。聞くことだけでなく、書いたり発表したりすることにも熱心だった。立派な学級経営をしてくれた担任のおかげで、セミナー講師としては、とてもやりやすかった。よく聞いてくれた子どもたちに心より感謝すると共に、子どもたちの心を引きつけた素晴らしい仕様のテキストに感謝したい。

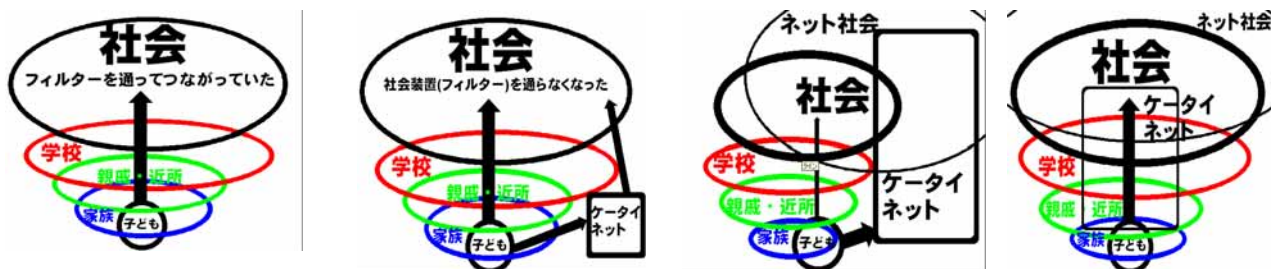
## 3. 坂梨小学校の保護者とのセミナー

### (1) ネット社会の図

保護者向けのセミナーでは、テキストに入る前にネット社会の説明をした。その折りに、ネット

社会の図を提示して説明をした。是非、人のネットワークの中に、ケータイやネット社会を取り戻そうというアピールをした。

人のフィルターの社会      社会装置を通らなくなった      ケータイ・ネットが中心に      ケータイ・ネットを社会装置に組み込む



## (2) 透明人間症候群

ケータイやネット社会は姿形が見えない透明人間のようなものである。ところが、人間が見えなくなると仮定すると何をしたいと問うと、出てくるのは悪いことばかりである。良いことなど一つも出てこないのである。人間の性ではないかとも思うのである。この透明性は、ケータイやネットの匿名性に通じるところがある。現象として既に現れているのである。これを「透明人間症候群」として、子どもたちや保護者のセミナーで紹介している。ケータイ・ネット社会の匿名性・秘密性は人間の悪の部分、魔の部分を引き出すツールなのである。

## (3) 熱心だった保護者の皆様

昨年もそうだったが、保護者の皆様は、子どもたちのセミナーを参観してから保護者向けのセミナーに参加すると思っていたが、子どもたちが帰ってから別にすることになっていた。勤務校は東京都、昨年のセミナーは埼玉県、今年は熊本県だったが、関心の高さは変わらなかった。保護者向けのテキストは、児童生徒向けのテキストに保護者向けを追加してあるので、児童生徒向けのテキストも一緒に見られるようになっている。家庭で、親子でテキストを見て話し合ってもらおうようお願いした。授業参観から参加している人たちもいて、保護者の皆様も、子どもたちと同様で、とても熱心に参加されていた。

## 4. 勤務校でのセミナー

昨年度と同様に自分の学校でも校長としてセミナーを開くことにした。今年度は、5年生の授業の一環としてセミナーを実施した。テキストはなかったが、セミナー用のプレゼンを利用して、ワークシートなどを工夫した。プレゼンがテキストを下地として作ってあるので、内容がまとまっていて、子どもたちは、よく学習してくれていた。

また、全校朝会でも、昨年と同様に情報モラルについて話をして啓発に努めた。内容はテキストからいくつか選んで話をした。

## 5. 感想と課題

昨年度の1時間のセミナーでは内容が多すぎてかえってわかりにくいという感想を生かして、内



容を少し減らした。60分バージョンを45分にした。しかし、テキストが内容豊富なので限界がある。せっかくのテキストである、どうしても少しでも触れたいと考えたが、残しておいて、残りを当該学校の担当者が行う方法も良いと思う。

昨年同様、私自身が大変勉強になり、刺激になった。本校の「情報モラルセミナー」の実施や「情報モラル年間指導計画」の作成も可能となった。この事業に参加させてもらったおかげと感謝している。

## 1. 2年目の事業を終えて

テキスト作りからスタートした1年目と異なり、改定版作成後に速やかに各地でセミナー実施できたことは、事務局・委員の双方にとって負担が軽減され、充実感のある2年目であった。

私自身は昨年度、並み居る専門家の間で右往左往しながら、「通信事業者の社員としての責任感」、「小学校高学年の子を持つ親としての共感」、「政府によるICT利活用施策への従事経験」といったところから、委員会の中に自分の居場所を見つけ、役割を果たすのが精一杯であった。幸い2年目は、セミナー用にスライド作成する余裕が生まれ、訪問した学校での温かい聴講姿勢にも励まされ、昨年度以上の達成感を得ることができた。

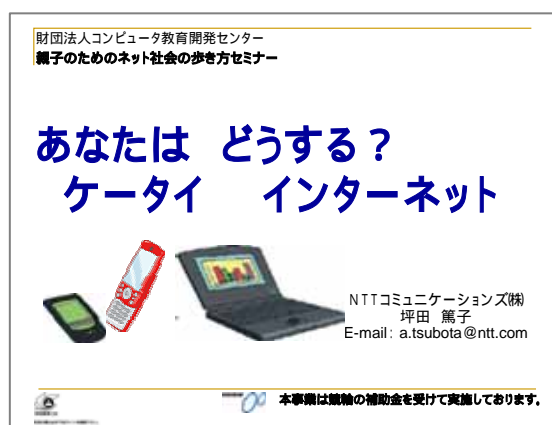


図1 セミナー用テキストの表

## 2. 親子セミナー会場にて

企業人にとってこのようなセミナー講師として学校に招いていただき、校長先生、教諭、また教委の方々から日頃の問題意識、セミナー招致に至った理由、実施効果への期待をお聞きするのは、めったにない機会が刺激的である。いずれの学校でも限られた保護者来校日に親子セミナーを組み込んだり、多くの保護者を呼び込もうとPTAに声掛けていただいたりするなど多くの協力を得ており、先生方の熱意に頭が下がる思いであった。

「今日は他所の人から話聞く日だね?」といった神妙な雰囲気の中で講堂に集まった子ども達の様子や、それを後方で見守る保護者の様子も、日頃大人相手の折衝やデスクワーク中心の私にとって新鮮である。子ども達が退屈しないようイラスト・写真を多用したスライドを作成したり、クイズ形式の原稿を考えたり、保護者には具体的事例を理解しやすいようスライドを工夫するなどして、会場で一定の効果があったことを確認できるとうれしく感じた。

スライドは特に、「もし自分が保護者としてセミナーを受講する立場だったら?」という視点で作成した。保護者によっては「子どものケータイの世界は全くわからない」「何かあったら怖いけど、正面から子どもに聞けない・言えない」あるいは、「それくらいもう知ってる」「我が家は大丈夫」まで、事情はそれぞれと思う。そのような中、保護者の皆さんがセミナー後に「色々わかった、勉強になった」と感じるより、「今後気をつけて子どもを見守りたい」「うちの子だけじゃなくて、同級生の子どもの様子も気に掛けてあげよう」という気持ちになってもらうことを目標に、対話形式で進行したつもりである。2会場ともよく目標を理解して下さり、何人もの保護者が各家庭のケータイ事情、ネット利用状況や今後気をつけたいことを発言下さった。子ども達はセミナーで取り上げた個々の事例は記憶が薄れたとしても、「講堂に集まって親子でケータイの話聞いたな」と時々思い出し、自身の態度を振り返ってもらえる機会となればうれしい。

**ネット上にはいろんな人が**

- 普通の学校やお家での生活とちがい、ネット上は子どもが1人で歩けるところ  
テキスト2・3ページ
- 楽しいこともいっぱい、でも危険と隣り合わせ  
テキスト4・5ページ
- ルールとマナーを守って正しく使おう  
テキスト19ページ
- 困ったときは  
テキスト20ページ




図2 子ども向け 結びの 슬라이ド

**今日一緒に考えたこと**

- 子どもたちのケータイ利用状況
- 大人にとって心配なこと
- 出会い系サイトを規制しても、一般サイトで
- どんどん付き合いの広がるプロフ
- サイト監視で見つからないための「隠語」
- 学校裏サイトと、ネットいじめ
- チェーンメール
- ワンクリ詐欺、フィッシング詐欺
- パソコンもケータイも、フィルタリング
- ご家庭で話し合ってください

図3 保護者向け 結びの 슬라이드

### 3. テキストについて

子ども達にとってはマンガが多くて楽しく読めること、保護者にとってはチラシよりは冊子形式で、家庭内で保管し時々見たくなる装丁・ボリュームであることを目指し、昨年度版を改訂してセミナー会場で配布した。講堂集合時に子ども達が大事そうに冊子を持ち、ページを繰って隣の子達とにっこりしていた様子を思い出す。きっと帰宅して家族で話題にしてくれたかなと期待している。

会場で保護者に聞くと、テキストで紹介する事例について詳しく知らなかった方も多いようだったが、受講後は関連するニュースなどに対してアンテナが高くなり、我が家ならどうするかという視点で話題にして下さっているとうれしい。



図4 イラスト多用したテキスト

### 4. 今後への提言

昨年度にテキスト作成し、CECのWebサイトでダウンロード版を公開した後、いくつかの社会教育団体から「こういうテキストを待っていた」「学校で先生が情報モラルを扱う教材はあっても、その他の団体が子どもと保護者を集めて教えようとする、適切なものがなかった」と聞いた。専門家を呼び講演してもらうのではなく、地域の団体が自ら最新事例を学び講座を提供しようとする、本事業で作成したわかりやすく適切なボリュームのテキストは最適だということであった。

昨年度の実施報告書で、今後の課題として「改訂版テキスト」と「セミナー用教材」の提供が上がっており、改訂版テキストについては今年度達成することができた。セミナー用教材の提供については、以下の観点で検討の機会を待ちたいと思う。

#### (1) プログラムに応じた教材であること

実施時期、所要時間、講義形態(講演中心/体験型/グループ学習)、対象者(子ども/保護者/両者同席)

( 2 ) 主催者・講師の準備度合いに配慮した教材であること

テキストを増刷し大量配布に備える、セミナー用スライドと講演の要点説明をセットで提供する、講演中に活用できる映像コンテンツ等を充実させる

( 1 )は H20・21 年度の実施結果から、プログラムを類型化し、それぞれに対して講師がどのような教材を用意して期待する成果を上げたか分析することが有効と考えられる。併せて、プログラム毎に主催者・事務局の準備作業を可視化することで、今後自主的にセミナー開催する団体にとって、準備負担を軽減できるものとする。これらは H20 年度実施報告書の今後の課題 「セミナーマニュアルの開発」として指摘済みで重複となるが、予算と労力が必要なことから今後の措置を期待する。

( 2 )も H20・21 年度でセミナー実施回数を重ね、各委員が自作スライドを改善してきたことから、H21 年度後半に着手が見込めたことであるが、実際は委員らが別な委託事業に従事したことにより、保留気味となってしまった。しかしながらこの委託事業は学校・地域における情報モラル指導者養成に関するものであり、そこでの教材開発は「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」にも還元できるものであるため、今後機会を得て講演補助資料の開発につなげたいと思う。テキスト増刷と映像コンテンツの充実は、H20 年度実施報告書からの継続指摘となるが、今後予算が確保されることを強く希望する。

## 1 学校における情報モラル指導

情報モラル指導の必要性は、多くの学校で認識されるようになり取り組まれるようになってきている。これは、ケータイにまつわるトラブルが多く聞かれ、そこに子ども達が関わっていることが周知されてきたことによるものと思われる。

本来情報モラルの指導は、「情報社会を生きぬき、健全に発展させていく上で、すべての国民が身につけておくべき考え方や態度」を育てることにある。「情報モラル」指導実践キックオフガイドでは、その内容を「心を磨く情報倫理」と「知恵を磨く情報安全」とがあるとされているが、トラブル対応として情報安全に関心は集まっている状況もある。

平成 20 年に文部科学省で行われた調査「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」

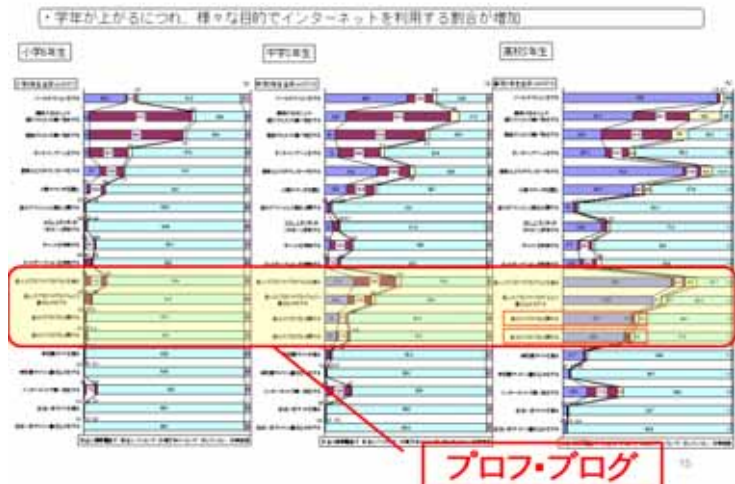
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/02/1246177.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/02/1246177.htm))では、ネットワーク利用が、パソコンではなくケータイが中心になり、プライベートでの利用が多くなっている。さらに、裏サイトや掲示板、プロフやブログ、リアル、SNS といったコミュニケーションサイトの利用も小学校から中学校、高校と徐々に利用が多くなり、特に高校になるとプロフやブログでの情報発信が急に多くなっている実態が明らかになっている。そして、そうしたコミュニティサイトでのトラブルが多く報道されるようになってきていることが、情報安全に関心が集まる原因であろう。

家に一人にいる時にケータイを使っているという状況、そして成長とともにコミュニティサイトの利用が多くなっていくという状況から、親の関わり方が大切であることが伝わってくる。インターネットやケータイというと、難しいとかよくわからないと避けてしまう大人と、大人には知られたくないと一人でケータイを使っている子どもとの関係を見直していく必要があるのではないだろうか。また、インターネットやケータイそのものに問題があるのではなく、その使い方

平日における子どもの携帯電話の利用場面



子どものインターネットの利用目的



を考えていくことが必要なのではないだろうか。ということ、この親子のためのネット社会の歩き方セミナーでは伝えようとした。

## 2 中学校でのセミナーを担当して

つくば市立谷田部東中学校と一宮市立南部中学校の 2 会場での親子のためのネット社会の歩き方セミナーを担当させていただいた。当日は、両校とも学校の公開日にあっており、授業参観の中での学年全員を対象とし、体育館で行われる授業であった。また、生徒向けのセミナーを保護者も参観するという形がとられていた。

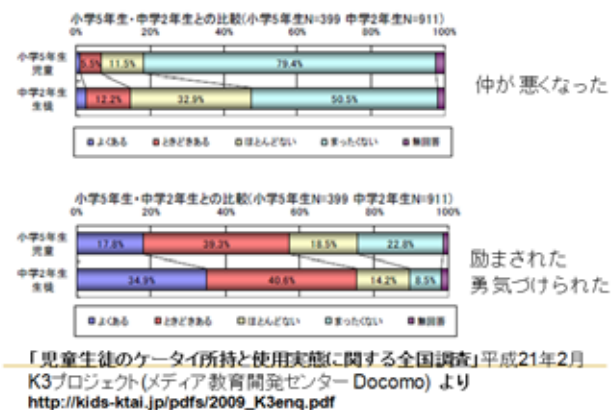
情報モラルの指導では、メディアや情報社会の特性を知り、日常のモラル・判断を基に、考えていくという形でよく行っているが、体育館に 100 名以上を対象にするということで、通常の授業とは異なる形態であった。セミナーテキストに沿って、説明をしていくということも考えられたが、単に説明をする講義形式では、身近な問題として考えるのは難しいと思われた。また、危険な面を示すだけにとどめず、ケータイやインターネットについて知り、よりよく活用していくことを考えていくようにと、講義形式だけではなく、メディアの利用や、情報社会で身の回りに起こる心配なことを取り上げ、情報社会やメディアの特性を説明した上で、問いかけて考える場面を作るようにした。

はじめに、メディアが身近なものであり、その影響の中で生活していることに気づかせ、確認をさせたところで、「ケータイを使うのはやめよう！」という話しではなく、「どう使うか」ということが今日の話であることを確認した。ケータイやインターネットの問題がよく取り上げられる理由には、まだ使われ初めて 10 年そこそこ、その間にも機能が増え、変化があり、まだ変化が続いている中で、社会の制度の整備や、使う人の合意などができあがっていないからではないか？そして、それを作っていくのが、今中学生のあなたたちであることを伝えるための話しを組み立てた。

プロフやコミュニティサイトの事件やトラブルの例を示し、その背景にはネットワーク上のこうしたシステムの仕組みを理解することが必要で、誰かが利益を得ることがなければ、こうした無料のサービスは展開されつづけることはないということを考える場面を作った。

そして、そういったことを知り、気を付けることで身を守ることもできるが、中には、気を付け

### ケータイとどうつきあわせるか



### 今日 話したこと

- ケータイは便利 でも 気をつけないと
- できることと していいことを区別しよう
- **自己責任の世界** ケータイの契約は
- 普段の生活の場 と ケータイ・ネット  
違うことと 同じことを考えよう
- 安全に 便利に **いい使い方を**
- **よい社会を作るのはあなたたち**



るだけでは防ぎようがないこともあることを示し、フィルタリングの仕組みとその機能についても説明をし、効果的にこうした仕組みを使うことが必要であることを伝えた。さらに、お互いに気持ちよく生活するためのマナーが、ケータイの利用の中にもあり、相手のことを考えてみることは、普通の生活の中のことと同じということにも気づかせたかった。

最後に、問題や課題が多いとされるケータイでも、実際には困ることよりも、役に立った経験をしている人の方が多いことをアンケートの結果から示し、「良い使い方をして、よりよい社会を作っていって欲しい」とまとめた。

### **3 セミナーを終えて**

今回のセミナーでは、生徒向けと、保護者向けを同時に話したが、保護者にだけ知らせておきたいことを取り上げることは、難しかった。

## 1. 「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の意義

昨年度からスタートしたこのセミナーの特徴の一つが「親子」というコンセプトである。ネット社会に対して親子がどのように関わっていくか、とりわけ親がどのような姿勢で子どもに関わるかがネット社会に関わっていく子どもにとって重要な鍵を握る。

子ども達の所有率が高まってきている携帯電話を通したネット社会の問題に関して、学校は基本的には関わりはない。というのも、携帯電話をいつ持たせるか、どのように使わせるかは家庭の判断にまかされており、また、携帯電話の学校への持ち込みは小中学校においては原則禁止となっているところが多いからである。さらには携帯電話の使い方や注意点など、学校教育の中で扱うことは必修とはなっていない。

しかしながら、現状では保護者が携帯電話の危険性を十分に知った上で、家庭の判断で子どもに持たせているところは少ない。そのため、使用のルールも決めていない家庭も多く存在する。一方で携帯電話に絡む事件や問題に子ども達も巻き込まれているのが現状である。

そのような状況において、学校が果たす役割として、子どもに対しては情報モラル教育、保護者に対してはネット社会の問題を啓発していく必要があるといえる。そのような視点からこの「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」は意義ある活動であると思う。

最近、ネット社会の問題について、生徒指導の視点から、警察のサイバー犯罪対策室の方を招聘し、講演をしてもらう学校が多くなってきた。必要に迫られてのことだとは思うが、「学校の中に警察が介入する」ということは見方を変えれば異常事態である。それほどまで深刻になっていると言えばそれまでだが、学校という教育の場であれば、警察の手を借りる前にできる限り教育で対応していきたいものである。

そういった意味からも、警察の方を招聘してのセミナーよりも、このような教育関係者が関わるセミナーの方がより良いように思う。

## 2. 実施校の様子と感想

### (1) 和歌山市立宮前小学校

教育委員会の方の話では、和歌山市はやや遅れているものの、和歌山県全体としては情報モラル教育に前向きに取り組んでいる地域のようなものである。

セミナーは6年生120名を対象に体育館で1時間ほど授業をした後、場所を変えて30人程度の保護者を対象に1時間ほど情報モラルに関する講義を行った。ちなみに体育館で行った授業に参加した保護者は数名であった。学校側の説明では数日前に保護者がたくさん集まるイベントがあり、そこにセミナーをあてる予定だったが、日程変更となったためにセミナーの参加者が少なくなってしまったとのことであった。

#### まとめ

##### 1 コミュニケーション

- ・文字情報の特性
- ・ネットを通した友達関係

##### 2 ネット被害

- ・個人情報
- ・出会い系サイト

##### 3 情報発信の責任

- ・責任ある発信
- ・思いやりのある発信

##### 4 依存症

- ・ケータイ依存
- ・日常生活とのバランス

図1 小学生用「まとめ」のスライド



まず、体育館で行った児童向けのセミナーであるが、小学生ということもあったので、できるだけ飽きずに参加できるように、具体的な事例や「ネット社会の歩き方」のアニメーションなどを織り交ぜ、図1にあるように、コミュニケーション、ネット被害、情報発信の責任、依存症の4つの項目に分けて授業形式で進めた。これは本セミナーの委員会で本年度作成した「そのとき、キミならどうする!？」の携帯電話用ネット展開用リーフレットをもとに学習指導項目を構成したものだ。後で思ったことであるが、このネット展開用リーフレットも授業の中に盛り込んで良かったのではないかと感じた。

内容的には問題点を効率良く網羅的に扱えたように思うが、全体的に最後に「～に気をつけよう」というものが多くなり、単調になってしまった。今後はもう少し内容や進め方に変化を持たせたり、子ども達が驚くようなデータや投げかけを工夫してみたい。

次に、保護者を対象に行ったセミナーでは図2にある項目にそって1時間程の講義を行った。

「子ども達を取り巻くネット社会の諸問題」では、実際にネット社会でおきた諸問題の新聞記事のタイトル一覧を示した。これは実態を把握させる上では有効であったと思う。

「ネット社会における諸問題の対策」の項目では、平成20年に文部科学省が行った「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」結果を示し、家庭での対策の必要性と具体的な対策例を紹介した。全体を通し、どの保護者も真剣に聞いていた。

## (2) 豊田市長足助中学校

豊田市中心部からさらに奥に入ったのどかな場所にあった。セミナー当日は土曜日であったが、学年保護者の奉仕活動日ということで多くの3年保護者と生徒が一緒になり、校内の清掃やペンキ塗りなどの奉仕作業を行っていた。保護者の参加率の高さと意外に父親の参加が多いのに驚かされた。

セミナーはその奉仕作業の後、体育館で生徒及び保護者が同席のもとで行った。事前に、セミナーの中で「親子が話し合える場を設定して欲しい」との要望があったので、保護者同席であることは承知していたが、体育館では生徒のすぐ横に保護者が座る形で椅子が並べられていた。確かにこの形でなければ親子が話し合うことは難しくなる。

セミナーには生徒70名に対し、保護者は48名と7割近くの参加者であった。

椅子も整然と並べられ、となりに保護者もいたせいか、聞く姿勢も大変素晴らしかった。

セミナーは図3の項目で行い、内容は子どもと保護者が同時に聞くことを考慮したものとした。

「ネット社会への主体的な対応」においては、

### 本日の内容

- 1 ネット社会の特性
- 2 子ども達を取り巻く  
ネット社会の諸問題
- 3 携帯電話に関する子ども達の実態
- 4 ネット社会における諸問題の対策
- 5 トラブルに巻き込まれたときの対応

図2 保護者用「導入」のスライド

### 本日の内容

- 1 データからみるネット社会の現状
- 2 子ども達を取り巻く  
ネット社会の諸問題
- 3 ネット社会への主体的な対応  
～具体的な事例を通して～
- 4 トラブルに巻き込まれないために

図3 親子用「導入」のスライド

子ども達に「情報発信と自己責任」及び「被害に遭ってしまったときの対応」について具体的な事例を通して考えさせた。

「トラブルに巻き込まれないために」のところでは、家庭でのコミュニケーションの大切さ、家庭でのルール作りの大切さを確認した後、保護者がきていない子どもへ配慮しつつ、となり同士で座っている親子で家庭でのルール等に関して話し合わせる時間をとった。

親子で話し合わせることにより、ネット社会の問題を共有でき、大変有意義なセミナーになったように感じた。

### 3. セミナーを終えて

このセミナーは「親子」とあるように、児童生徒及び保護者の双方が関わるのが条件となっている。関わり方は前者の学校の形式が一般的だが、後者の学校の形式の方が親子セミナーとしては理想的な形のように感じた。ただ、これを実現するには保護者の参加率が高いことが前提条件となるため、残念ながら実現させるためのハードルは高いと言わざるを得ない。

このセミナーのように外部講師を呼ぶとイベント的になってしまい、それで「情報モラル教育」が完結したようになってしまっはよくない。このセミナーが、その学校の情報モラル教育のきっかけになるようになってもらいたいと願う。そのためにもセミナーの後、情報教育担当者と今後の情報モラル教育の推進について話し合いができる時間が設定できると良いと思った。一方、保護者に対してはそう何度も行えるものではないので、このようなセミナーである程度完結できるような内容にするべきではないかと思う。